

日生劇場は、1963 年 10 月にベルリン・ドイツ・オペラによる公演で正式にオープンしました。劇場は開場当時から変わらずその意匠をとどめているため、劇場に足を踏み入れるや否や 50 年前にタイムトラベルした気分になれるのです。劇場は日比谷の劇場地区の一角にあり、日本を代表する舞台芸術劇場の一つで日本生命によって建設されました。建物は建築家の村野藤吾による設計で、昭和の時代を代表する建築の一例として高い評価を得ています。建物内に入ると、すぐに凝った造りの天井、万成石（花崗岩）の柱、白大理石の床、レッドカーペットが敷かれた大階段と、劇場がある階へと続く螺旋階段が目に入るでしょう。

ホール内の内装には緻密な装飾が施され、劇場の舞台作品に独特の雰囲気を与えています。壁には濃淡様々な青、ピンク、白、金のガラススタイルのモザイクが施され、天井には 2 万枚ものアコヤ貝の貝殻が散りばめられています。

劇場の収容数は約 1300 人です。オペラ、ミュージカル、海外作品のリメイクなど、数多くの舞台が上演されています。日本生命元社長の弘世現は、自身の若いころの観劇体験をもとに、良質な舞台作品の提供を通じて（人々に提供し、楽しんでもらうことで）豊かな社会づくりに貢献したいと考えました。日生劇場は家族向けのお芝居やコンサートも提供しており、東京で一番の子ども向け劇場でもあります。